

令和6年9月20日

四国地域の経済動向（概要） （令和6年7月分）

～四国地域の経済は、一部に足踏みがみられるものの、持ち直しの動きが続いている～（→）
 （一部に足踏みがみられるものの、持ち直しの動きが続いている）

生産（→）	鉱工業生産は、一進一退で推移している。《一進一退で推移》 鉱工業生産指数は、前月比が2カ月ぶりに上昇した。
個人消費（→）	個人消費は、持ち直しているものの、足踏みがみられる。 《持ち直しているものの、足踏みがみられる》 百貨店・スーパー販売額（全店）は、2カ月ぶりに前年を下回った。 コンビニエンスストア（全店）の販売額は、2カ月連続で前年を上回った。 家電大型専門店販売額は、2カ月連続で前年を上回った。 ドラッグストア販売額は、37カ月連続で前年を上回った。 ホームセンター販売額は、2カ月連続で前年を上回った。 乗用車新車新規登録・届出台数は、7カ月ぶりに前年を上回った。
住宅着工	新設住宅着工戸数は、8カ月ぶりに前年を上回った。
公共工事	公共工事は、請負金額が3カ月連続で前年を上回り、年度累計は3カ月連続で前年度を上回った。
設備投資	令和6年度の設備投資計画額は、3年ぶりに前年度を上回る見込み。
雇用	雇用は、有効求人倍率が前月と同水準、一般新規求人数は2カ月ぶりに前年を上回った。
倒産	倒産件数、負債総額ともに2カ月ぶりに前年を上回った。

注意：（ ）内は基調判断の動き。→は据え置き、↗は上方修正、↘は下方修正を示す。《 》内は前月の基調判断を記載している。

【四 国 の 経 済 指 標】

令和6年7月

	四 国			全 国		
	前 月 比 (%)		前 年 同 月 比 (%)	前 月 比 (%)		前 年 同 月 比 (%)
鉱工業生産指数 （平成27年=100、全国は令和2年=100 季節調整済 前年同月比は原指数）	89.1	2.2	7.0	102.8	2.8	2.7
鉱工業出荷指数（〃）	84.0	▲ 3.0	3.5	101.4	2.4	1.7
鉱工業在庫指数（〃）	103.8	3.9	▲ 0.3	103.0	0.4	▲ 2.5
百貨店・スーパー販売額（単位：億円）（全 店）	479	▲ 2.2		18,990		1.3
		▲ 0.9				1.1
コンビニエンスストア販売額（単位：億円）	269		1.1	11,482		0.7
家電大型専門店販売額（単位：億円）	103		3.1	4,540		1.6
ドラッグストア販売額（単位：億円）	244		3.0	7,790		4.5
ホームセンター販売額（単位：億円）	87		0.9	2,977		▲ 1.5
乗用車新車新規登録・届出台数（単位：台）	10,453		4.7	338,699		5.5
新設住宅着工戸数（単位：戸）	1,620		6.8	68,014		▲ 0.2
公共工事請負金額（単位：億円）	634		14.8	15,307		10.9
有効求人倍率（季節調整済）	1.26	（前月差	0.00）	1.24	（前月差	0.01）
企業倒産件数（単位：件）	17		13.33	953		25.72

※前月比、前年同月比は、増減率を示す。有効求人倍率(季節調整済)は、前月差(ポイント差)を示す。

（本発表資料のお問い合わせ先）
 四国経済産業局 総務企画部参事官（調査担当） 田中
 担当者：三野
 電 話：087-811-8509（直通）
 URL：<https://www.shikoku.meti.go.jp/>

四国地域の経済動向

(令和6年7月分)

1. 鉱工業生産 ～一進一退～

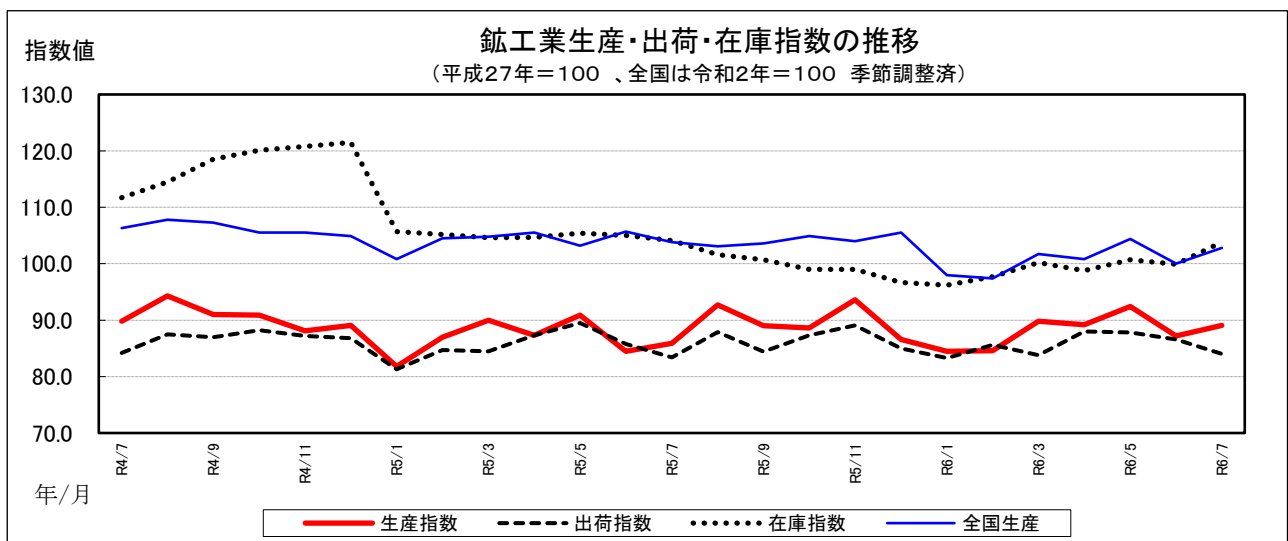
当月の鉱工業指数をみると、前月比では、生産は2カ月ぶりの上昇、出荷は3カ月連続の低下、在庫は2カ月ぶりの上昇、在庫率は2カ月連続の上昇となった。なお、前年同月比では、生産は4カ月連続の上昇、出荷は3カ月ぶりの上昇、在庫は16カ月連続の低下、在庫率は6カ月連続の低下となった。

生産は、前月比2.2%増(前年同月比7.0%増)となり、生産指数(季節調整済)は89.1となった。業種別にみると、汎用・生産用機械工業、プラスチック製品工業、電気機械工業などが上昇し、化学・石油石炭製品工業、非鉄金属工業、輸送機械工業が低下した。出荷は、前月比3.0%減(前年同月比3.5%増)となった。業種別にみると、化学・石油石炭製品工業、非鉄金属工業、汎用・生産用機械工業などが低下し、プラスチック製品工業、金属製品工業、鉄鋼業などが上昇した。在庫は、前月比3.9%増(前年同月比0.3%減)となった。業種別にみると、化学・石油石炭製品工業、非鉄金属工業、その他工業などが上昇し、電気機械工業、プラスチック製品工業、窯業・土石製品工業などが低下した。在庫率は、前月比6.6%増(前年同月比5.4%減)となった。

【鉱工業生産・出荷・在庫指数(季節調整済) 平成27年=100】

(増減率: %)

前月(年)比	R5	R6/2	R6/3	R6/4	R6/5	R6/6	R6/7
生産指数	▲ 2.6	0.1	6.1	▲ 0.7	3.6	▲ 5.6	2.2
出荷指数	▲ 1.6	2.8	▲ 2.1	5.0	▲ 0.2	▲ 1.4	▲ 3.0
在庫指数	▲ 20.4	1.6	2.6	▲ 1.4	1.9	▲ 0.8	3.9



※最新月は速報値

(出所: 経済産業省「鉱工業指数」、四国経済産業局「四国地域の鉱工業生産・出荷・在庫指数」)

2. 個人消費 ～持ち直しているものの、足踏み～

(1) 小売販売

当月の百貨店・スーパー254店(百貨店4店とスーパー250店)の販売額合計は478.7億円で、前年同月比2.2%減と2カ月ぶりに前年を下回った。

業態別にみると、百貨店4店の販売額は65.2億円で、前年同月比6.6%減と2カ月ぶりに前年を下回った。品目別にみると、飲食料品は中元商戦が振るわなかったことなどから、4カ月連続で前年を下回った。その他の商品は化粧品の動きが鈍かったことや高級時計など高額品が好調であった前年の反動などから、2カ月ぶりに前年を下回った。衣料品はクリアランスセールの開始が前年より早かった影響などから、2カ月ぶりに前年を下回った。

スーパー250店の販売額は413.5億円で、前年同月比1.4%減と2カ月ぶりに前年を下回った。品目別にみると、その他の商品はマスクなどの衛生用品やティッシュペーパーなどの紙製品、文房具などの動きが鈍かったことなどから、20カ月連続で前年を下回った。衣料品は紳士服や子供服などが伸び悩んだことなどから、6カ月連続で前年を下回った。一方、家庭用品については鍋やフライパンなどの調理器具や、弁当箱、水筒などの動きが良かったことなどから、

6カ月連続で前年を上回った。

コンビニエンスストア1,572店の商品販売額及びサービス売上高は269.1億円で、前年同月比1.1%増と2カ月連続で前年を上回った。

家電大型専門店86店の販売額は103.5億円で、前年同月比3.1%増と2カ月連続で前年を上回った。

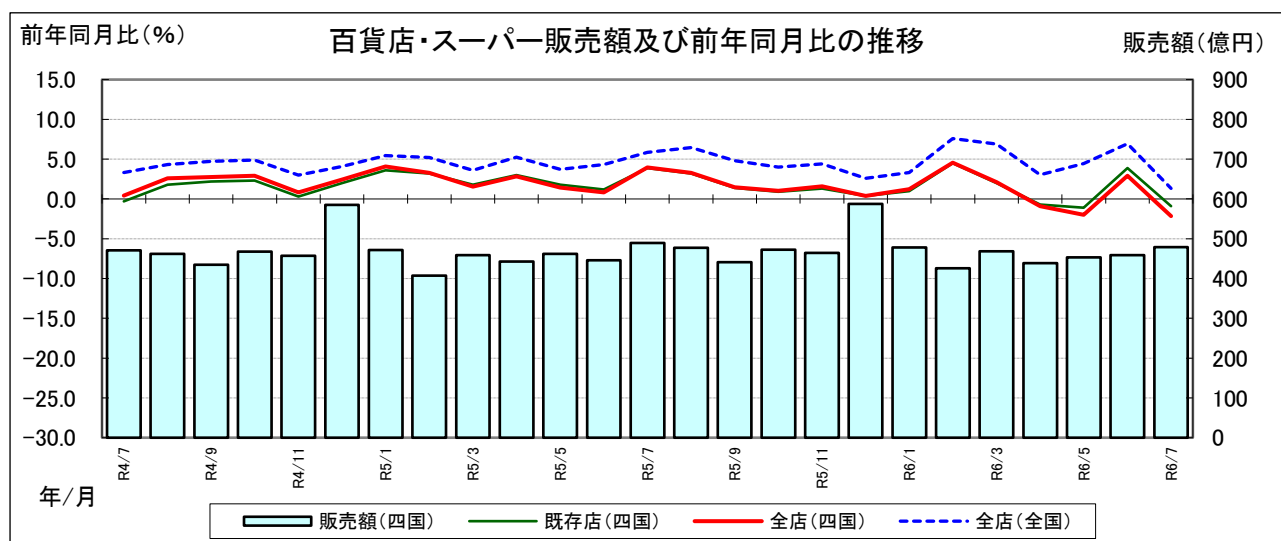
ドラッグストア631店の販売額は244.3億円で、前年同月比3.0%増と37カ月連続で前年を上回った。

ホームセンター201店の販売額は86.6億円で、前年同月比0.9%増と2カ月連続で前年を上回った。

【百貨店・スーパー販売額】

(増減率: %)

前年同月(年)比	R5	R6/2	R6/3	R6/4	R6/5	R6/6	R6/7
全 店	2.1	4.6	2.1	▲ 0.9	▲ 2.0	2.9	▲ 2.2
既存店	2.1	4.5	2.0	▲ 0.7	▲ 1.1	3.9	▲ 0.9



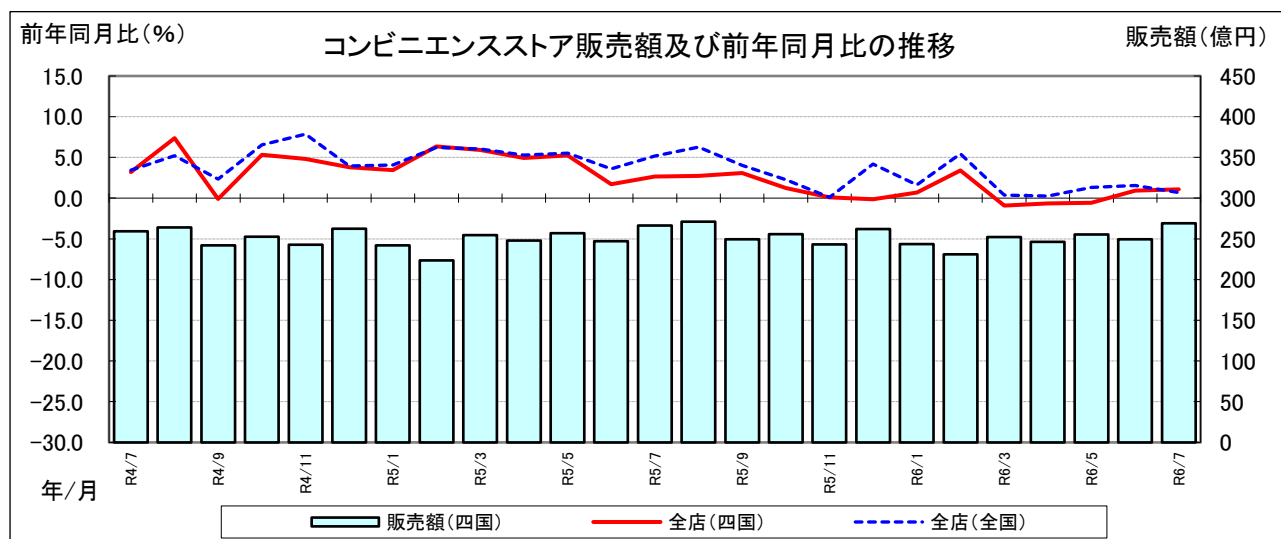
※最新月は速報値

(出所: 経済産業省「商業動態統計調査」、四国経済産業局「四国地域の百貨店・スーパー販売状況」)

【コンビニエンスストア販売額】

(増減率: %)

前年同月(年)比	R5	R6/2	R6/3	R6/4	R6/5	R6/6	R6/7
全 店	3.0	3.4	▲ 0.9	▲ 0.7	▲ 0.6	0.9	1.1



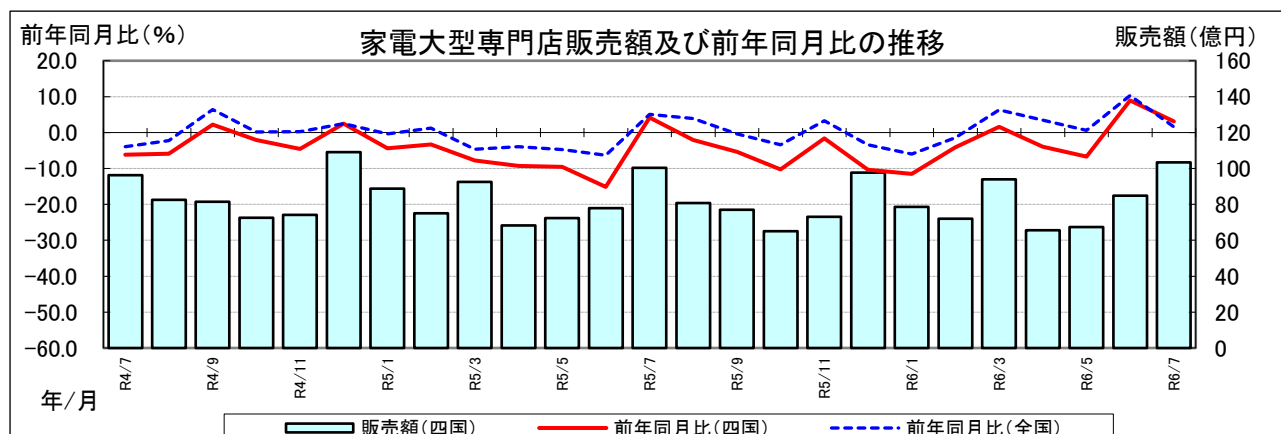
※最新月は速報値

(出所: 経済産業省「商業動態統計調査」)

【家電大型専門店販売額】

(増減率: %)

前年同月(年)比	R5	R6/2	R6/3	R6/4	R6/5	R6/6	R6/7
全 店	▲ 6.3	▲ 4.2	1.6	▲ 3.9	▲ 6.7	8.9	3.1



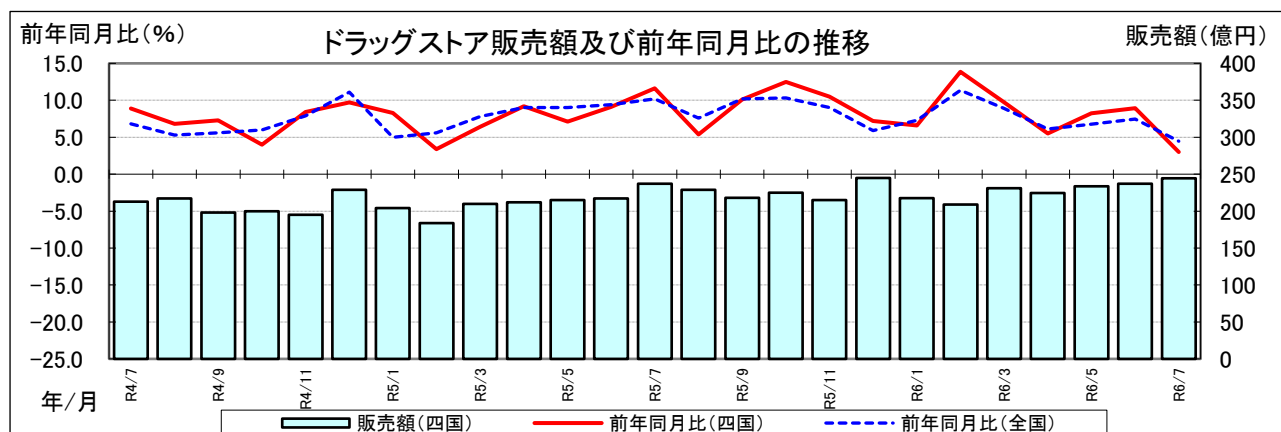
※最新月は速報値

(出所:経済産業省「商業動態統計調査」)

【ドラッグストア販売額】

(増減率: %)

前年同月(年)比	R5	R6/2	R6/3	R6/4	R6/5	R6/6	R6/7
全 店	8.5	13.9	9.7	5.5	8.2	8.9	3.0



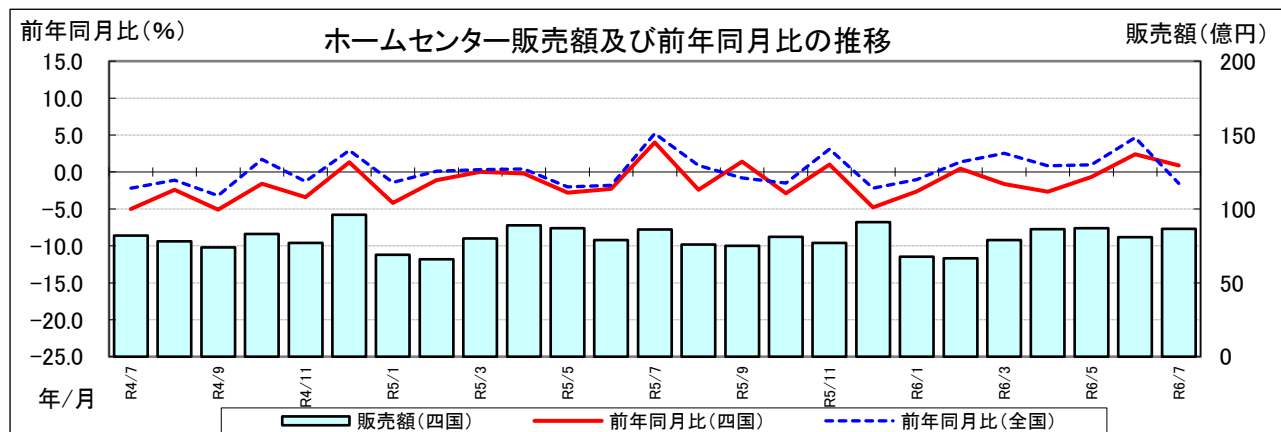
※最新月は速報値

(出所:経済産業省「商業動態統計調査」)

【ホームセンター販売額】

(増減率: %)

前年同月(年)比	R5	R6/2	R6/3	R6/4	R6/5	R6/6	R6/7
全 店	▲ 1.3	0.5	▲ 1.6	▲ 2.7	▲ 0.7	2.4	0.9



※最新月は速報値

(出所:経済産業省「商業動態統計調査」)

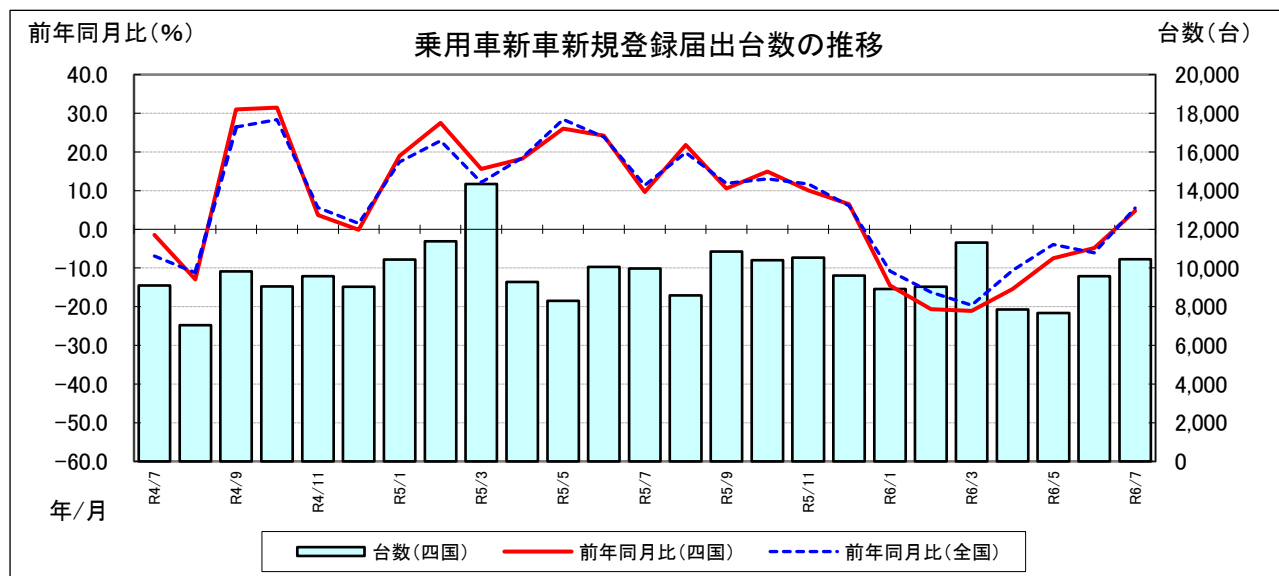
(2) 乗用車新車新規登録・届出台数

当月の乗用車新車新規登録・届出台数は10,453台で、前年同月比4.7%増となり、7カ月ぶりに前年を上回った。車種別でみると、普通乗用車が前年同月比0.9%減、小型乗用車が同5.0%増、軽乗用車が同10.3%増となった。

【乗用車新車新規登録・届出台数】

(増減率: %)

	R5	R6/2	R6/3	R6/4	R6/5	R6/6	R6/7
前年同月(年)比	16.5	▲ 20.6	▲ 21.1	▲ 15.5	▲ 7.5	▲ 4.9	4.7



(出所: 四国運輸局、(一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車協会連合会)

3. 住宅着工

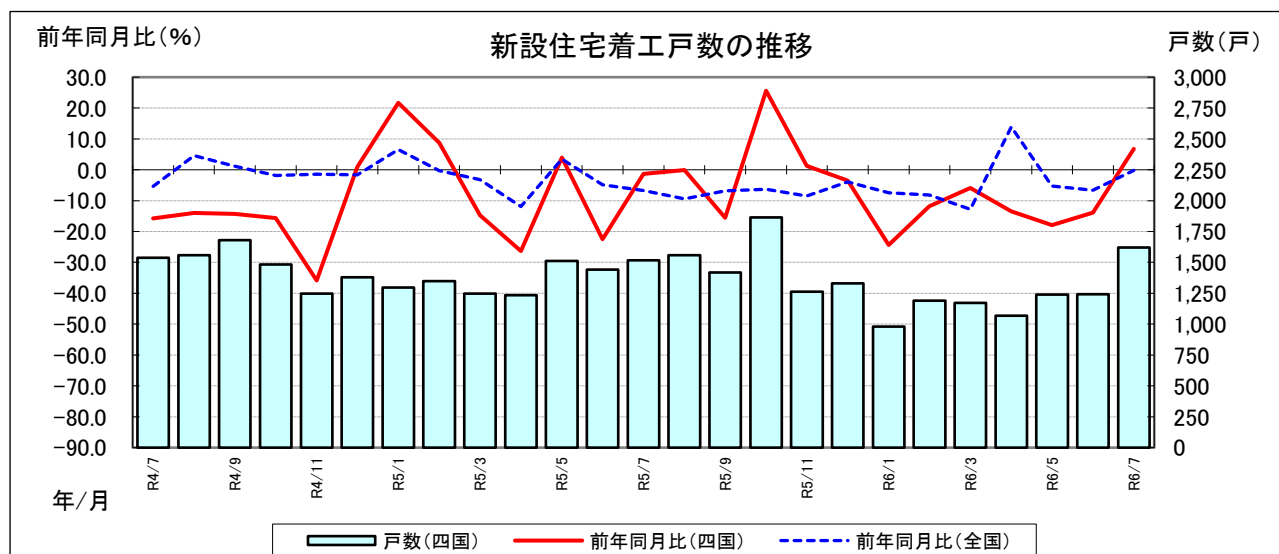
当月の新設住宅着工戸数は、1,620戸で、前年同月比6.8%増となり、8カ月ぶりに前年を上回った。

区分別でみると、持家が前年同月比2.0%減、貸家が同11.1%増、分譲住宅が同22.5%増となった。

【新設住宅着工戸数】

(増減率: %)

	R5	R6/2	R6/3	R6/4	R6/5	R6/6	R6/7
前年同月(年)比	▲ 3.5	▲ 11.8	▲ 5.9	▲ 13.5	▲ 17.9	▲ 13.9	6.8



(出所: 国土交通省「建築着工統計調査」)

4. 公共工事

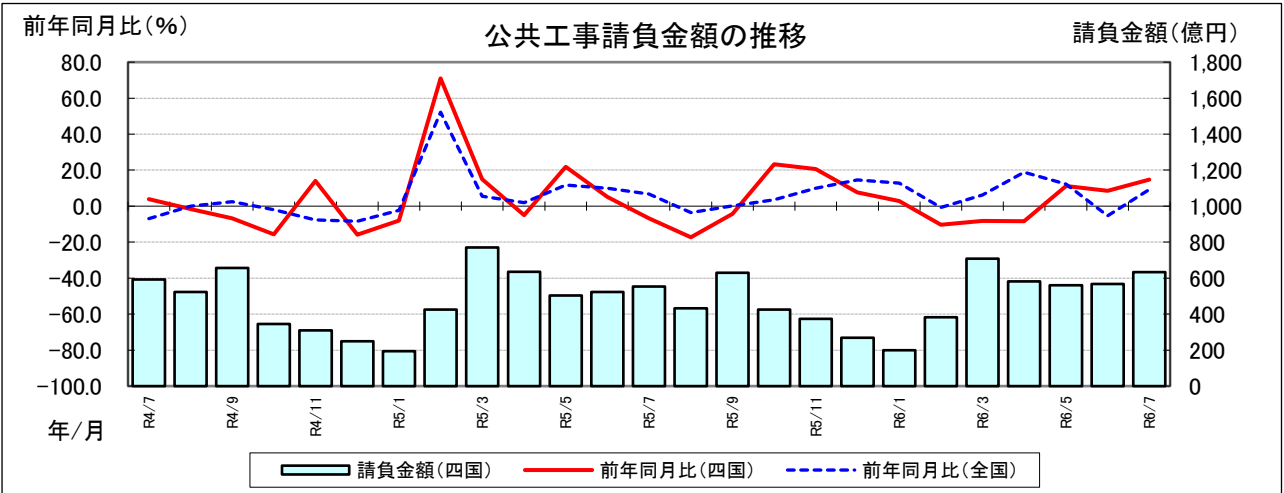
当月の公共工事の発注状況を請負金額でみると634億円で、前年同月比14.8%増と3カ月連続で前年を上回った。前年度同月累計比では5.9%増と3カ月連続で前年度を上回った。

発注者別では、国が前年同月比39.9%増、県が同38.2%増、市町村が同3.4%減、その他の公共的団体が同0.2%増、独立行政法人等が同13.3%減となった。

【公共工事請負金額】

(増減率: %)

	R5	R6/2	R6/3	R6/4	R6/5	R6/6	R6/7
前年同月(年度)比	▲ 0.3	▲ 10.3	▲ 8.2	▲ 8.3	11.2	8.5	14.8
前年度同月累計比	-	1.0	▲ 0.3	▲ 8.3	0.3	2.9	5.9



(出所:北海道建設業信用保証㈱・東日本建設業保証㈱・西日本建設業保証㈱「公共工事前払金保証統計」、西日本建設業保証㈱香川支店)

5. 設備投資

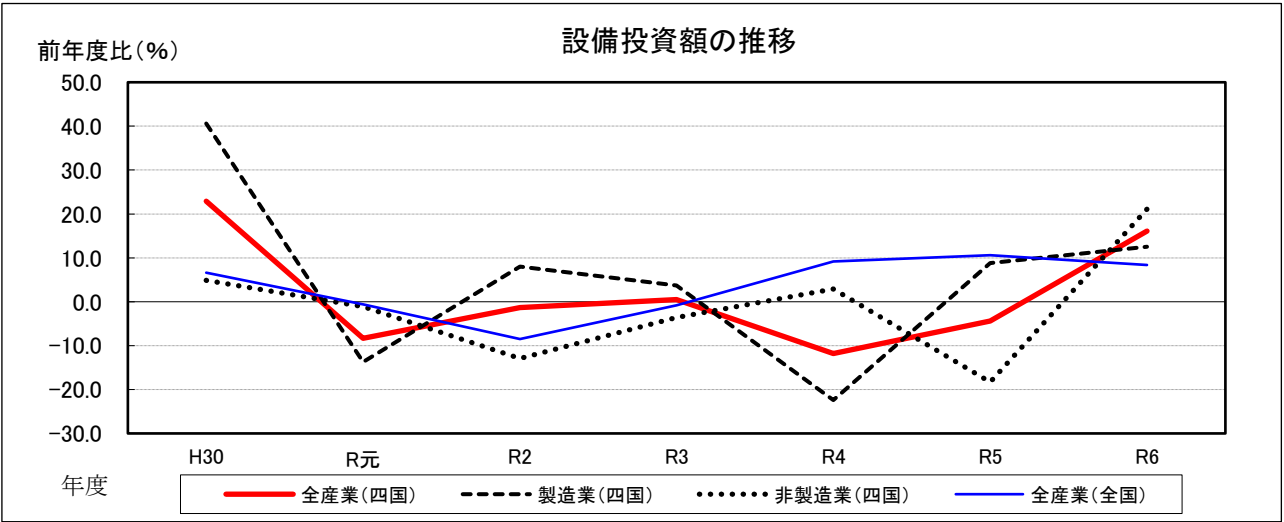
令和6年度の設備投資計画は、前年度比16.1%増となっている。

業種別では、製造業が前年度比12.5%増、非製造業が同21.1%増となっている。

【設備投資額(含む土地投資額)】

(前年度比: %)

	H30 年度実績	R 元年度実績	R2 年度実績	R3 年度実績	R4 年度実績	R5 年度計画 (実績見込み)	R6 年度計画
全産業	22.9	▲ 8.3	▲ 1.3	0.5	▲ 11.8	▲ 4.4	16.1
製造業	40.6	▲ 13.7	8.0	3.7	▲ 22.4	8.8	12.5
非製造業	4.9	▲ 1.1	▲ 12.9	▲ 3.6	2.9	▲ 18.3	21.1



(出所:日本銀行「企業短期経済観測調査」)

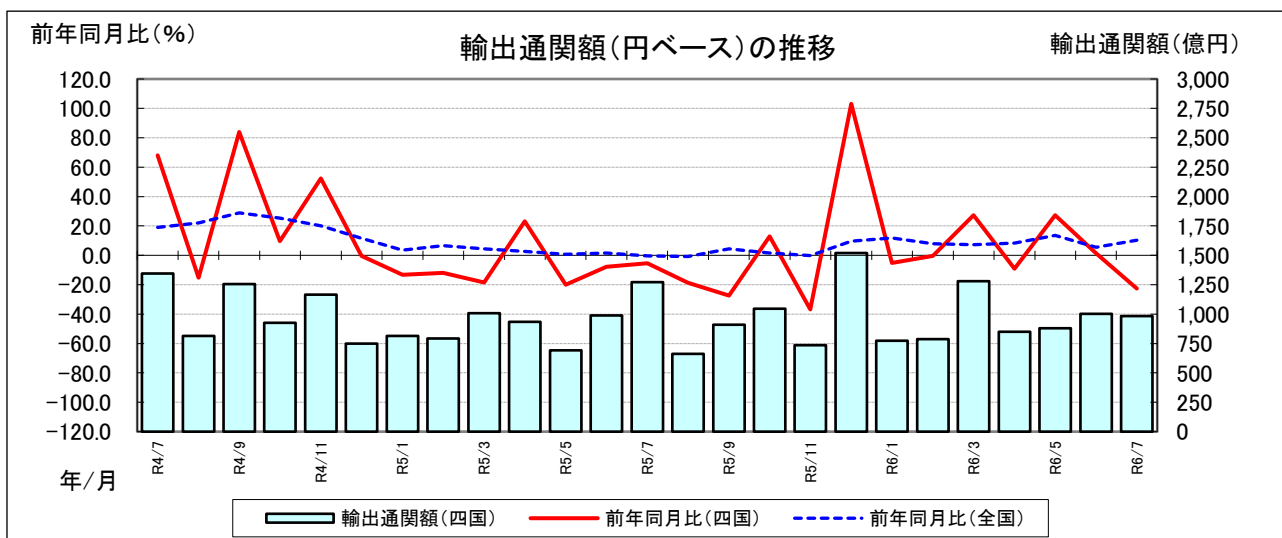
6. 貿 易

(1) 輸出

当月の輸出通関額(円ベース)は983億円で、有機化合物、非鉄金属などが増加したものの、船舶、繊維機械などが減少したため、前年同月比22.6%減と、3カ月ぶりに前年を下回った。

【輸出通関額】 (増減率:%)

	R5	R6/2	R6/3	R6/4	R6/5	R6/6	R6/7
前年同月(年)比	▲ 5.4	▲ 0.4	27.2	▲ 9.1	27.3	1.3	▲ 22.6

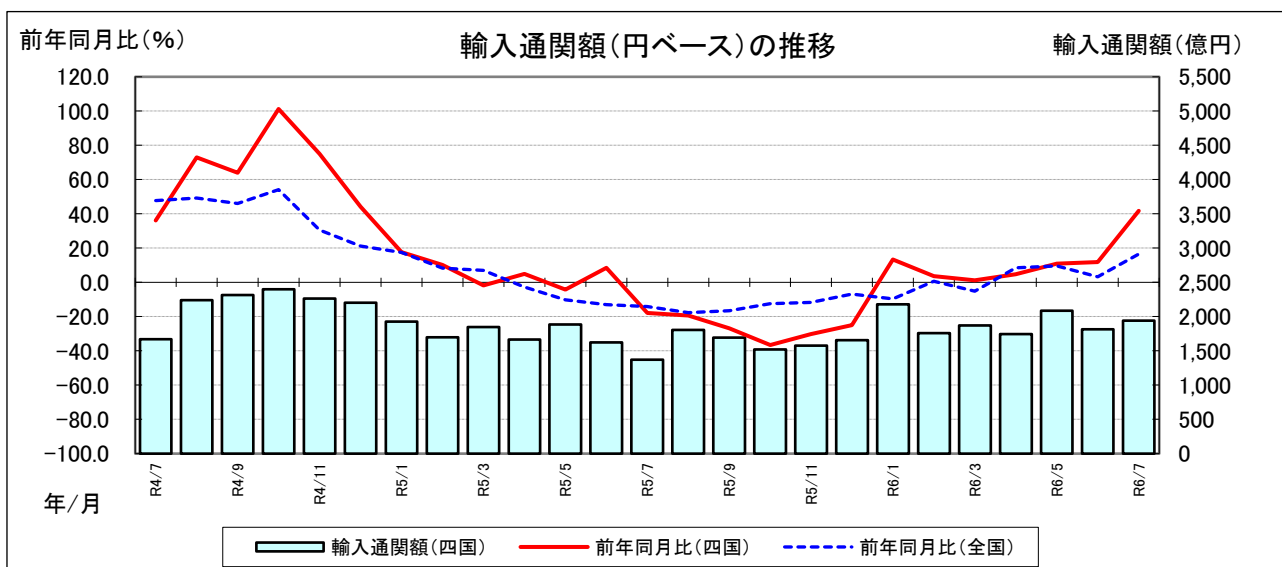


(2) 輸入

当月の輸入通関額(円ベース)は1,943億円で、天然ガス及び製造ガス、石油製品などが減少したものの、金属鉱及びくず、原油及び粗油などが増加したため、前年同月比41.7%増と、7カ月連続で前年を上回った。

【輸入通関額】 (増減率:%)

	R5	R6/2	R6/3	R6/4	R6/5	R6/6	R6/7
前年同月(年)比	▲ 12.6	3.6	1.2	4.8	10.9	11.8	41.7



7. 雇 用

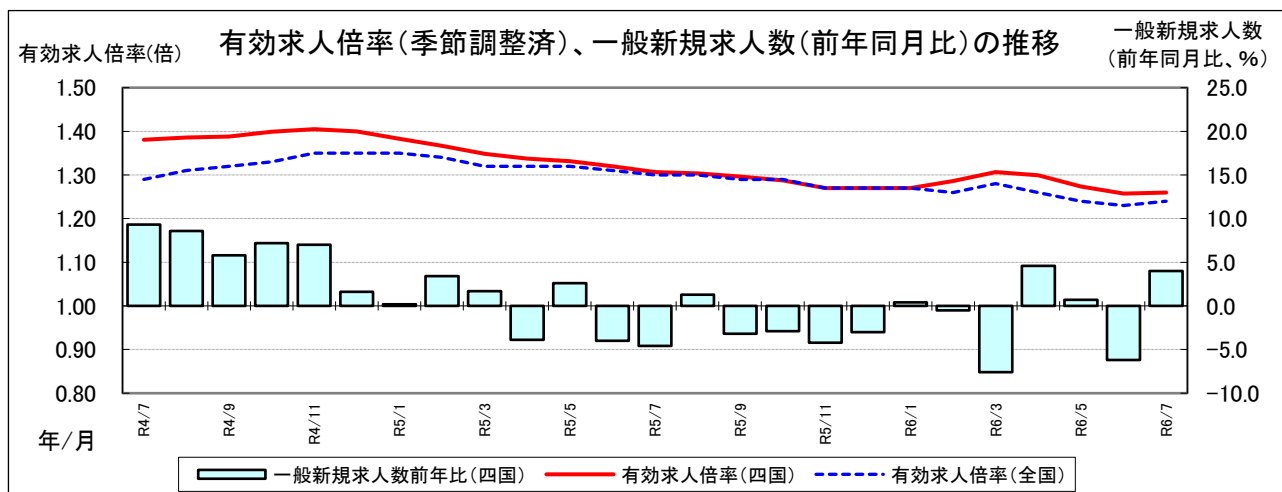
当月の雇用情勢をみると、有効求人倍率(季節調整済)は1.26倍で、前月と同水準となった。

産業別の一般新規求人数(新規学卒、パートタイムを除く)をみると、「製造業」、「学術研究、専門・技術サービス業」などが前年を下回ったものの、「サービス業(他に分類されないもの)」、「医療、福祉」などが前年を上回り、全体では前年同月比4.0%増と、2カ月ぶりに前年を上回った。

【雇用】

(倍、増減率：%)

	R5	R6/2	R6/3	R6/4	R6/5	R6/6	R6/7
有効求人倍率(季節調整済)	1.32	1.29	1.31	1.30	1.27	1.26	1.26
一般新規求人数(前年同月(年)比)	▲ 1.4	▲ 0.5	▲ 7.6	4.6	0.7	▲ 6.2	4.0



(出所：厚生労働省「職業安定業務統計」、四国4県の労働局データを加工)

8. 企業倒産

当月の企業倒産状況をみると、倒産件数は17件で前年同月比13.33%増と、2カ月ぶりに前年を上回った。

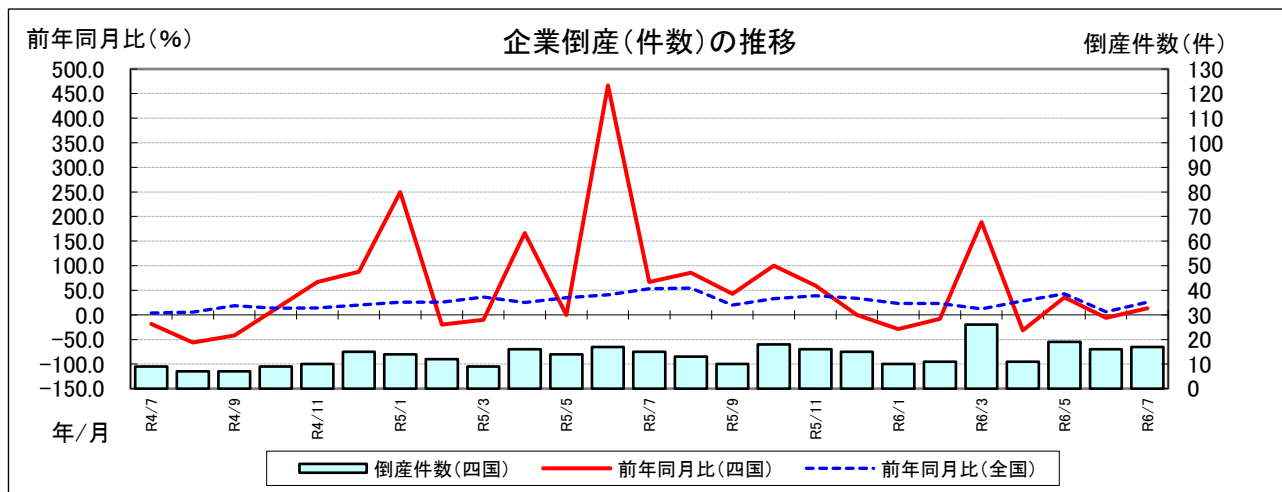
また、負債総額は15.3億円で、前年同月比41.39%増と、2カ月ぶりに前年を上回った。

7月の過去10年間をみると、倒産件数は最多、負債総額は8番目となっている。原因別では、販売不振が14件、既往のシワ寄せが2件、放漫経営が1件となっている。また、産業別では、建設業、製造業、サービス業他が各4件、小売業が3件、卸売業、運輸業が各1件となっている。

【企業倒産】

(件、負債総額：百万円)

	R5	R6/2	R6/3	R6/4	R6/5	R6/6	R6/7
件 数	169	11	26	11	19	16	17
負債総額	40,548	1,555	2,268	1,678	1,871	1,317	1,527



(出所：㈱東京商工リサーチ)

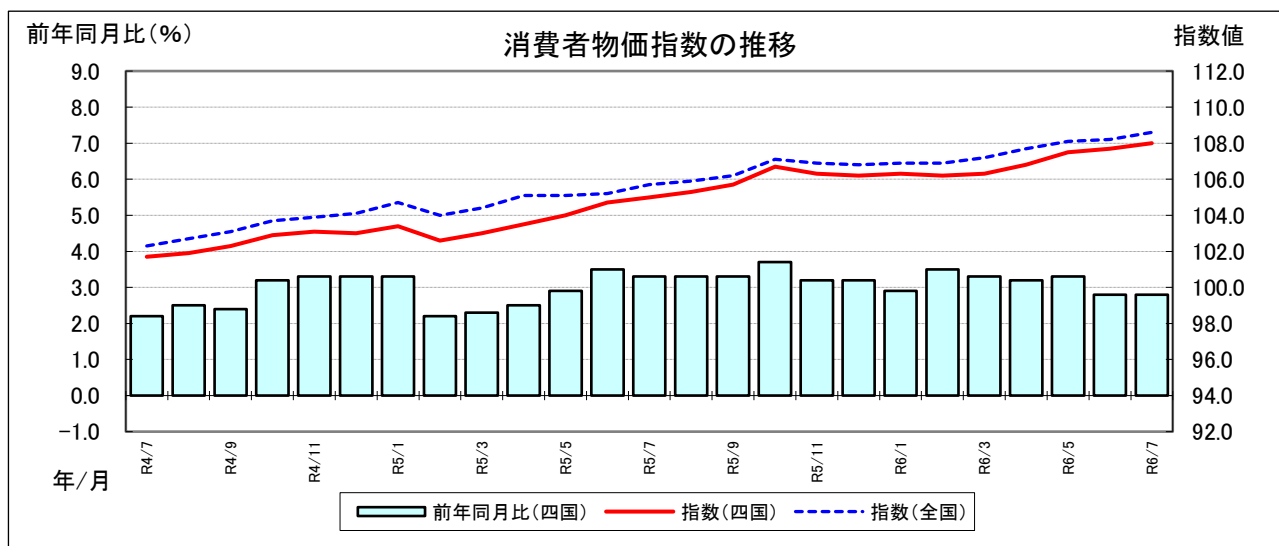
9. 消費者物価

当月の消費者物価指数は108.0で、被服及び履物、食料が低下したものの、光熱・水道、教養娯楽などが上昇したことから前月比0.3%増となった。また、前年同月比は、食料、光熱・水道などが上昇したことから2.8%増となった。

【消費者物価指数 令和2年=100】

(増減率: %)

	R5	R6/2	R6/3	R6/4	R6/5	R6/6	R6/7
前月(年)比	3.1	▲ 0.1	0.1	0.5	0.6	0.2	0.3



(出所：総務省「消費者物価指数」)